

2023 年度卒業証書・学位記授与式 告辞

下関市立大学

学長 韓 昌完 (ハン チャンワン)

2023 年度の卒業証書・学位記授与式において下関市立大学は学部 441 名の卒業生と、大学院から 11 名、特別支援教育特別専攻科から 6 名の修了生を社会に送り出します。本日は、皆さんと卒業まで励まし支えてこられたご家族の方々に、大学を代表して心からお祝い申し上げます。また、下関市長 前田 晋太郎 様、ならびに下関議会議長 香川 昌則 様にご臨席を賜りこの良き日を迎えられること大変嬉しく思います。

この数年で、皆さんが持っているスマートフォンに始まり様々なスマートデバイスが開発されました。さらに、AI の導入によって多くの作業の自動化が急速に進んでいます。ドラえもんのような SF 作品の空想が現実になっていく高揚感や驚きがあると同時に、不安定で不確実性の高いこれからの時代を、皆さんはどう生きますか？ もし皆さんが 100 歳まで生きるとしたら、すでに 22 歳の時点で 5,200 週のうち 1,150 週を使い、残りは 4,050 週です。これを長いと感じますか？ 短いと感じますか？ アインシュタインの相対性理論ではすべての人に平等な絶対的時間はなく、時間の本質は個人的でそれぞれの人生という旅路により決まる特別なものであるそうです。しかし、人は自分が感じる変化を通してしか時間の存在を感じられないために他人と比較することができず、私たちは人によって異なる時間が流れているというアイデアを受け入れ難く感じます。けれど、これから到来する変化の激しい時代、今まで以上に体感する時間の個人差が広がるでしょう。時間の使い次第で、長くて充実させることもできれば、あっという間に流れてしまうこともあります。今日は、そのような時代にどう生きるかに関して私なりのアドバイスを伝えたいと思います。

まず一つ、変化が激しく、またそのスピードも加速していくのであれば、これからはその変化に積極的に参加していくことが賢い選択になります。なぜなら変化とは、言い換えれば人類の進化のプロセスであるからです。

ただし、二つめのアドバイスとして、変化に乗るときには自分なりの哲学を持ってください。哲学とは物事の本質を追求する学問であり、人類の歴史上には多くの哲学者達が私たちに生きるための知恵を与えてくれています。あえてどの哲学が良いとは言いません。新技術や AI に関して情報が溢れる中、その真偽の見極めや必要な情報の選択に迫られたとき、変化に振り回されて自分の生活や人生が不安定にならないように自分の心に芯を持ちましょう。

三つめに大事なのが、コミュニケーション能力です。ホモサピエンスはコミュニケーションの力で文明を築き、種を繁栄させてきました。とは言え、AI の発展により 10 人分の仕事が 1 人で済むようになれば、求められるコミュニケーションの質も変わります。同じ職場内や同じ業種だけを相手にすることから、異業種間や他文化間でのコミュニケーションの必要性が益々高まっていきます。これからは、一段上のコミュニケーション能力を高める努力が、仕事の成功や幸せな生活の鍵になるでしょう。

しかし、変化に乗るにも能力を高めるにも、新しい知識やスキルが必要です。四つめは、ぜひ積極的に

自分自身をアップデートするための学び直しに投資してください。本学の先進的なりカレント教育の取り組みは、文部科学省や大学認証評価などからも高い評価をいただきました。今年度も、下関市内だけでなく北海道から東京、沖縄などから土日とオンラインを活用した教育プログラムを受講し、多くの社会人の方々が新しい学びを修められています。私たちはいつでも歓迎しますので、皆さんが必要とするならばいつでも戻ってください。

最後に、これらの根底にある生活の姿勢として、日常を丁寧に生きましょう。村上春樹氏は、私の好きな小説家の一人です。彼は、職業としての小説家であることを日常に組み込み、毎日原稿用紙 10 枚分だけを過不足無く書くことをルーティンにしているそうです。1 日 10 枚の積み重ねが 1 つの長編小説になるように、日々過ぎていく 1 分 1 秒の時間の重なりが 1 日、1 週間となり、100 歳まで残り 4,050 週となったあなただけの人生をつくっていきます。日常を丁寧に生きることで脳も変わります。最初は苦しく、もちろん時間もかかります。ところが、ルーティンを決めて毎日丁寧に実行していくうちに、脳の中のジャングルが踏み固められて一番の近道がつくられてくるのです。

皆さんがどのような生き方を選んだとしても、人生とは美しくそれぞれの価値がある生き方であることに違いはありません。その上で、ぜひ自分自身をよく理解したうえでこれからの時間を丁寧に生きていくことを願い、2023 年度の卒業証書・学位記授与式の告辞とさせていただきます。